

●●● 東山区ボランティアセンター便り ●●●

ボランティアセンターでは区内で活動するグループの活動交流、情報交換・ネットワークづくりを行っています。

活動交流会



交流会で活動状況を報告

各団体の活動をそれぞれ報告するとともに、困っていることや、それをどのように解決していったらよいか、また会員を増やす工夫について意見交換会をしました。一番は、会員自身が活動を楽しむということ、そこから仲間が増えるというのが皆さん多くのご意見でした。

広報活動



京都華頂大・短大の学園祭でパネル展示をして広報活動

当日の出店団体から大学の読み聞かせサークルに声をかけ、地域の子育てサークルへの読み聞かせに参加する話をすすめています。

大学の先生も立ち寄られ、学生を地域につなげたいとの思いも聞けた広報活動となりました。

日常生活自立支援事業

判断能力の低下で不安を感じる方が、安心した生活が送れるよう、福祉サービスの利用や毎日の生活費、支払いのお金管理のお手伝いをします。

お手伝いさせていただくのは、東山区社会福祉協議会の専門員と*生活支援員です。

*生活支援員になりませんか？

地域の高齢の方や障害のある方が、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援します。主に、利用者の困りごとをお聞きし、郵便などの書類の確認や生活に必要な金銭管理をお手伝いします。

ボランティアグループ一覧

高齢者支援

今熊野生活支援あしの会
さくら会食のつどい
NPO 法人 助け合いグループりぼん
ほほえみ会（東山デイサービスセンター ボランティアグループ）

障害者支援・当事者団体

視覚障害者支援ボランティア「スキップ」
はびねすの会
ふれあい会
YUYUYOU（デイ銭湯ボランティアグループ）

子育て活動

いちご組
今熊野児童館母親クラブトーマスの会 くれよん座
子育てコミュニティベース in ひなたぼっこ
ハッピーマザー&チルドレン

青少年活動

京都市東山青少年活動センター

上記以外

いいまちねっと東山
NPO 法人 HOPE300（アジアの希望 300）
NPO 法人音の風
ガーデン DE 東山
京都生活協同組合東ブロック事務局
さわやか探検隊
東山いきいき市民活動センター
NPO 法人 東山やすらぎの会

HIGASHIYAMA ひがしやま

題字 / 真神 仁宏氏

Vol. 20

発行：平成31年3月

社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会

学区の取組

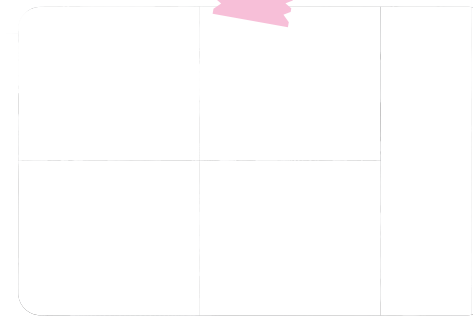
東山区の各学区社会福祉協議会では、関係団体と一緒に高齢者をはじめとした住民の皆さんが、元気でいきいきと暮らせるまちづくりを進めています。今回、その中の2学区の取組を紹介いたします。

今熊野学区

おしゃべりに花が咲く「いきいきサロン」

今熊野社協では、女性会と共催で平成29年6月から、高齢の皆さんが気軽におしゃべりをして過ごせる「いきいきサロン」を2カ月に1度実施しています。役員の皆さん、初めは「坂があるし、来てくれるだろうか」「手伝ってくれ

る人は？」といろいろ不安はあったものの、女性会の全面的な協力で実施に至りました。実施してみると、毎回多くの方のおしゃべりでラジカセのBGMが聞こえない程。ボランティアさんがピアノ演奏を申し出てくださり、洒落たBGMも。社協の役員さんはもちろん、いろいろな人の協力で順調に続いています。



毎回男性の参加もあり、おしゃべりに花が咲く。



女性会の皆さんが全面的に協力。



介護予防の体操

一橋学区

子どもからお年寄りまで…全戸訪問事業

一橋学区では5年に一度、民生児童委員協議会が高齢者調査を行っていました。近年の災害、孤独死、虐待などの問題に対応するためには、高齢者だけでなく、若い単身世帯、子育て世帯や障害者世帯のことも把握していく必要がある、との思いで、昨秋から民生委員と社協の合同で学区内の全世帯の訪問に取り組んでいます。

民生委員、老人福祉員、社協委員がチームで各世帯をまわり、お名前や世帯状況をお聞きします。地域の身近な相談先として民協・社協を知っていただくとともに、あらためて住民とつながる機会になっています。



どこに、だれが、どう暮らしているか、の情報は災害時の安否確認の助けになります。話を聞いていくうちに、暮らしの楽しみや心配事にまで話題が広がることも。

訪問を受けた

住民の声

地域に相談する先があることを初めて知りました。何かの時に安心だな、と思いました。

東山区災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施しました

10/28（日）秋晴れの下、東山開晴館のグラウンドにて東山区災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施しました。区総合防災訓練会場の一隅で実施したこの訓練には、学区社協の役員さんや地域住民など約70名の方々に参加していただきました。今回の訓練では、①災害ボラ

ンティアセンターでの活動の流れを確認する訓練、②学区社協訪問訓練、③障害者のニーズ聞き取り訓練を行いました。これらの訓練を通して、区災害ボランティアセンターの活動を広く区民に知っていただく機会となりました。

①災害ボランティアセンターにおける活動の流れ



ボランティア受付

ボランティア希望者は、最初に受付票とボランティア活動保険加入カードの記入、名札の作成を行います。



オリエンテーション

ボランティア登録後、活動上の注意事項などの説明を受けます。



マッチング

被災者からの依頼内容の説明を聞き、参加できる活動に手を挙げます。

③障害者ニーズ聞き取り訓練

この訓練では、被災者と災害ボランティアセンタースタッフの電話でのやり取りを想定し、知的、聴覚、視覚に障害のある方に対して配慮すべきことを説明しました。災害時、障害のある方が1人で行動するの

は、普段にも増して困難なことが多くなります。どんな声かけが必要なのか、どんなことを手伝ってもらえると助かるのかなど、障害のある方や障害者を支援する方から説明していただきました。



表筒筆記サークルの方が、聴覚に障害のある方へ配慮すべきことを説明しています。

区災害ボランティアセンターって？

区災害ボランティアセンターは、災害による被災者・被災地支援を目的に設置される臨時的ボランティアセンターです。区災害対策本部（区役所）や地域と連携をとりながら被災者や避難所のニーズの把握、ボランティアの受け入れやコーディネートを行います。ボランティアを「必要とする人」と「したい人」をつなぐ場所、それが災害ボランティアセンターです。

②学区社協訪問訓練

この訓練では、京都女子大学の学生と学区社協の役員さんが、新道学区・清水学区の要配慮者宅を訪問しました。（要配慮者とは、高齢者や障害のある方など、災害時に特別な

配慮が必要な方のことです。）今回の訪問訓練では配慮が必要な方の身体状況や要望を聞き取り、災害時にどんな助けが必要かを確認しました。



訪問先ごとにグループをつくり、リーダーを決めます。訪問先の情報を確認したら、いよいよ活動に出発します。



活動が終わったら活動内容をセンタースタッフに報告します。お疲れ様でした。

災害時に配慮が必要な方への対応

知的障害のある方／発達障害のある方／精神障害のある方

（特性）……………

- ・急激な環境変化でパニックを起こすこともある
- ・他人への配慮が得意ではない
- ・特定のものにこだわりをもつ場合がある

（配慮する点）……………

- ・顔見知りの人と一緒に訪問すると安心する
- ・相手の気持ちを落ち着かせ、状況を具体的にわかりやすく、ゆっくり説明する
- ・一度に多くの内容を盛り込まず、一つのことを簡潔に伝える

聴覚に障害のある方

（特性）……………

- ・コミュニケーションは音声、口話、手話、筆談などで行っている
- ・手話ができない人も多い。初めにどうしたら伝わるのか確認する

（配慮する点）……………

- ・重要な情報は必ず文字で伝達する
- ・大きな声が逆に聞き取りにくいこともある
- ・高齢の難聴者で補聴器をつけている方にはゆっくりと大きな声で意味文節ごとに区切って話す

視覚に障害のある方

（特性）……………

- ・音声や手で触れることで情報を得ている
- ・1人で慣れない場所を移動することが困難
- ・（周囲の状況がわかりづらいので）自分から助けを求めることが困難

（配慮する点）……………

- ・「これ」「あれ」といった曖昧な表現ではなく、実際の方向、長さ、大きさなど具体的に説明する

社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会

〒605-0863 京都市東山区五条通大和路東入5丁目梅林町576-5

「やすらぎ・ふれあい館」内 [東山区社協](#) [検索](#)

TEL (075) 551-4849 FAX (075) 551-4858

